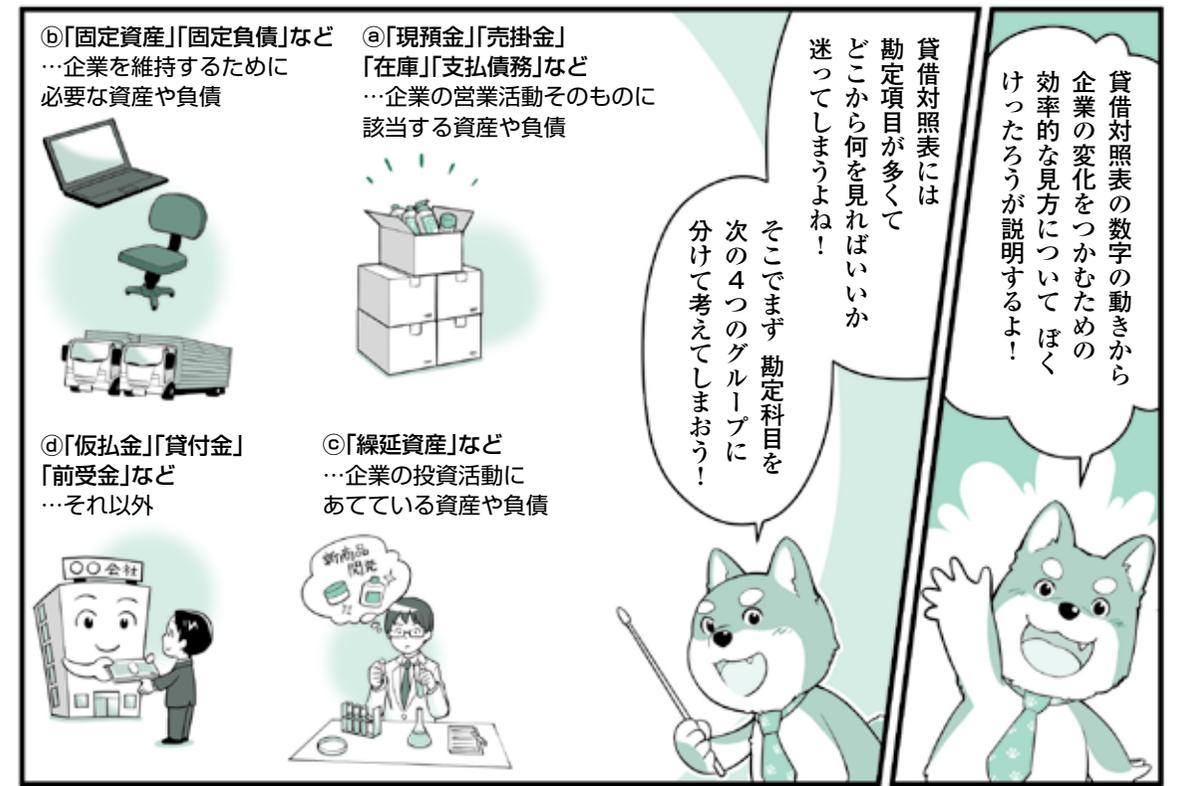


# 貸借対照表はココに着目 & こう変化を読み取ろう

解説 ● 櫻沢 健  
画 ● マル

貸借対照表の着目すべき勘定科目、変化を読み取るための効率的な見方を解説します。



の増加がみられたりします。

この2つの観点から企業の貸借対照表を検証すると、原則から外れたものが発生します。担当者はその事象について、1つひとつ「どうしてこうなったのか」「原則どおりにするにはどうしたらよいのか」と問いかけて回答を見つけることで、その企業の実態をつかめるようになります。そしてそれが企業の資金需要を発掘することにもつながるのです。

**回転期間や固定資産を確認**

月商から企業の動きを見る方法もあります。売上高を12(カ月)で割ることで、その企業の平均月商が求められます。企業の活動は基本的に月単位のため、営業にかかわる資産や負債は、月商に対する比率(回転期間)で見たほうが、その企業のお金の動きが把握しやすくなるのです。

回転期間はその企業の体力や基盤に影響されますが、基本的に業種ごとに特色があるため、業種の平均回転期間と比較して企業を評

**貸借対照表とは、企業が営業活動するうえで必要な資産を決算時点で切り取って、数値化した表です。複雑に見える貸借対照表ですが、まずは次の①②の原則に則って見てみることで単純化することができます。**

①**勘定科目は4つに分けられる**

②**企業の営業活動そのものに該当する資産や負債**

例Ⅰ 現預金・売掛金・棚卸資産・支払債務・借入金(営業用)

③**企業を維持してゆくために必要な資産や負債**

例Ⅱ 固定資産・固定負債・資本

④**企業の投資活動にあてている資産や負債**

例Ⅲ 投資勘定・貸付金・繰延資産

⑤**それ以外**

(a)(b)(c)以外の資産や負債)

例Ⅳ 仮払金・貸付金・前受金

②**勘定科目は原則、企業の規模に比例して推移している**

例えば、売上が減少したときには営業に供する勘定科目も減少したり、利益が増加したときには現預金の増加や、売掛金や棚卸資産